

《ペタンク》

・スチール製のボールを投げ、ピュットという目標球に、どれだけ近づけるかで得点を競う、南フランス生まれの球技です。

写 真



起 源

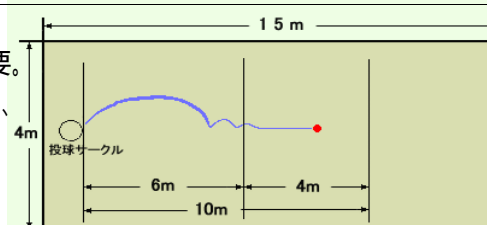
・マルセイユ近郊のラ・シオタという町で、古くから伝わる「プロヴァンサル」が起源。
・1910年、元チャンピオンのジュール・ル・ノアールが車椅子生活となり、友人のピティオが、彼のためにルール変更を提唱し、ボールを投げるスタート位置と目標球の距離を短くし、助走も禁止したのが、現在のペタンクの始まり。

人 数

・基本はトリプルス(3人対3人)；持ちボールは1人につき2個、合計12個。
・ダブルス(2人対2人)；持ちボールは1人につき3個、合計12個。
・シングルス(1人対1人)；持ちボールは1人につき3～4個、合計6個か8個。
*持ちボールを1人につき1個として、最大12人まで一緒にプレーできます。

場 所

・公園、空き地、グラウンドなど、どんな場所でも行えるが、コンクリートやアスファルトなどで舗装されていないことが必要。
・芝生や草地などではなく、細かい砂利などが敷かれていて、ボールがバウンドしにくい地面が最適である。
・広さは、幅4m、長さ15m以上が必要。
(幅3m、長さ12mに短縮することも可能)



進 め 方

・ジャンケンで先攻を決め、勝った方が直径35cm～50cmの円を描く。
・先攻チームが円の中から6～10mの距離にピュットを投げる。(有効範囲にならなかった場合は、3回まで投げ直すことができる。3回とも失敗した時は、ピュットを投げる権利が相手チームに移動する。*サークルの位置を変えても良い。ただし、ボールを最初に投げる権利はそのまま移動しない。相手チームも3回失敗した時は、また元に戻るが、サークルの位置は変更できない。)
・先攻チームが第1投を投げる。(ピュットを投げた人以外でもかまわない。)
・後攻チームが、先攻チームのボールよりもピュットに近づくまで、ボールを投げる。
・投げたボールが、相手チームのボールよりもピュットに寄れば、投げるチームが交替し、遠い位置にあるボールのチームが、相手のボールよりピュットに近くなるまで、持ち球を続けて投げる。(この時、ボールをピュットにぶつけて、移動させてもかまわない。)
・投げたチームが最後の投球で、ピュットに相手チームより近寄らなかった場合でも、相手チームは残り球を全て投球して、1メーヌが終了する。
・次のメーヌは、勝ったチームが前のメーヌでピュットの在った位置を中心に円を描き、そこから勝ったチームがピュットを投げて開始される。

勝敗 の決 め方

・各メーヌとも、ピュットに最も近いボールのチームにだけ得点が入る。負けチームは0点。
・負けチームの最もピュットに近いボールよりも、さらにピュットに近い位置にあるボールの個数がそのまま得点となり、各メーヌの合計で先に13点とったチームが勝ち。(予選などでは、先に11点とったチームが勝ちとする場合もある。)

そ の 他

・目で見て、どちらのボールが近いかが判断できないときは、メジャーで測定する。
・ピュットの有効範囲は、小学生が4m～8m、中学生は5m～9mとし、一般と区別する。
・メーヌの途中でピュットが移動し、無くなった、禁止区域に入った、サークルから20m以上、又は3m以内になったときは、そのピュットは無効となる。
・ピュットが無効になったとき、両チームとも持ちボールが残っているか、両チームとも持ちボールが残っていないという同じ状態の場合は、メーヌ自体が無効となる。
・一方のチームだけに持ちボールが残っているときは、残っている数がメーヌの得点となる。
・当施設では、体育館でニチレクボール(室内ペタンク)を行うことも可能。